

高等学校事情

第11回 北海道エリア

北海道

北海道の アウトライン

道外への通学が難しく 全国2位の地元進学率

文部科学省「2012年度学校基本調査速報」によると、北海道の18歳人口は5万544人。高校数は公立244校、私立53校の合計297校(特別支援学校を除く)で、生徒数は公立10万3860人、私立約2万9740人(定時制を除く)の合計約13万3600人である。

大学等進学率は40.2%で全国第46

図表1 18歳人口と進学率の推移

| 年度 | 2008 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 |
|------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 18歳人口(人) | 54,425 | 53,795 | 53,333 | 52,346 | 50,544 |
| 大学等進学率(%) | 40.4 | 41.3 | 41.1 | 40.4 | 40.2 |
| 地元大学進学率(%) | 71.0 | 70.1 | 71.5 | 69.4 | 69.7 |
| 地元短大進学率(%) | 89.1 | 89.6 | 88.2 | 88.8 | 87.9 |

※学校基本調査報告書を基に進研アドが算出。
※大学等進学率には、大学・短大の通信教育部への進学者を含む。過年度卒業者を含まない。
※地元大学進学率、地元短大進学率には過年度卒業者を含む。

今号では北海道エリアをレポートする。北海道では、地域医療を支える人材育成や、小規模高校の学習環境向上など、地域性に即した取り組みに着手している。また、道内の大学との緊密な連携事業も展開。一方で、近年は全国にも視野を広げ、道外の難関大学への合格をめざす取り組みを始める公立高校も見られる。

位。地元大学進学率は69.7%と愛知県に続き全国第2位である。道内には国公立・私立合わせて37校の4年制大学がある。北海道教育委員会は「多くの大学が集まる札幌市内だけでなく、他の地域でも自宅から通える大学への進学を希望する生徒は多い」という。他県への通学が困難なため、地元志向=道内志向という独特の状況になっている。

高校の現状① 特色ある制度

道独自の制度により 学習環境を改善

高校の特色づくりを推進するために、2008年度に導入された北海道独自の制度が「普通科フィールド制」である。フィールドとは、「コミュニケーションメディア」「看護・医療」「社会情報探究」など、テーマに沿った科目のまとまりを指す。生徒は複数

のフィールドの中から、興味・関心や進路希望に応じて選択し、学ぶことができる。現在は7校の普通科高校が導入し、学習へのモチベーションアップや進路意識の向上につなげている。

2009年度にこの制度を導入した札幌平岡高校は、2012年度入学者から、さらに進路目標を明確にした「進学重視型フィールド制」をスタートさせた。文系国公立大学への進学をめざす「文理総合フィールド」や、理系・看護医療系大学への進学を目標とする「自然科学フィールド」など、全4フィールドを設定し、生徒の進路実現を支援する。

もう一つ、北海道独自の制度として2008年度にスタートしたのが「地域キャンパス校」。これは、他地域への通学が困難な1学年1学級の高校に対し、センター校と呼ばれる同一通学区域内の高校がサポートする制度だ。センター校から教員を派遣する週に8時間程度の出張授業や、それを補完する遠隔授業、生徒会の交流、合同の部活動や学校行事、教員の研修などを行う。現在は10地域16組(32校)で導入され、選択科目の充実や専門性の高い授業の実施によって、地方部の高校の学習環境の維持向上に取り組んでいる。本制度は高校の配置計画とも関係しており、北海道の広域性を考慮したシステムである。

高校の現状② 指定校施策

複数の推進事業により 学力向上をめざす

北海道教委は2008年度から「地域医療を支える人づくりプロジェクト」に着手。北海道大学医学部、札幌医科大学、旭川医科大学の3大学と連携して事業に取り組んでいる。

事業の一つに、医学部進学をめざす生徒の学習を支援する「医進類型指定校」の設置がある。人口が集中する都市部以外でも地域医療の担い手を育成しようと、医学部進学実績がある札幌市以外の道立高校9校を指定し、少人数制授業を理数科目などで実施している。

他に、指定校以外の生徒も参加できる取り組みとして「高校生メディカル講座」「地域医療体験」「メディカル・キャンプ・セミナー」がある。

夏季休業中に3泊4日で行われるメディカル・キャンプ・セミナーには、毎年80人前後の道立高校2年生が参加している。地域医療や医学部進学に関する講演と、数学・英語の集中講義を実施。旭川医科大学の施設見学や医学科在生とのチーム医療に関するワークショップを行うなど、進学のモチベーションを高めるプログラムが組まれている。高校時代にキャンプ・セミナーに参加した学生が、今度はサポーターとして運営を支援するケースも生まれているという。

事業開始時点の2008年度には、医学部へ進学した道立高校生は156人だったが、2011年度には195人に増加。指定校に限ると2008年度の進学者60人に対し、2011年度には80人となっている(過年度卒業者含む)。

この状況について道教委は「医学部

図表2 「地域医療を支える人づくりプロジェクト」の概要

| 名称 | 内容 |
|-----------------|--|
| 医進類型指定校 | 医学部への進学実績がある札幌市以外の高校を指定校とし、医学部進学を目標とした教育課程を編成、数学・理科・外国語等で少人数指導を行う。 【指定校(全9校)】 函館中部、小樽潮陵、岩見沢東、旭川東、北見北斗、室蘭栄、苫小牧東、帯広柏葉、釧路湖陵 |
| 高校生メディカル講座 | 協定を結ぶ北海道大学医学部、札幌医科大学、旭川医科大学の教員等を招き、医学・医療に関する講演・講義を年に2回実施。 |
| 地域医療体験 | 各地域の医療施設の訪問・見学、医療スタッフとの座談会などを通して、地域医療に対する生徒の理解を深める。 |
| メディカル・キャンプ・セミナー | 医学部への進学をめざす全道立高校2年生を対象に、数学・英語の講義、地域医療の現状についての講演、旭川医科大学での施設見学やワークショップ、体験学習等を実施。 |

志望者が少ない地方部でも、同じ目標を持つ仲間づくりができる環境が整いつつある。生徒の意欲を喚起しながら、次年度以降も継続させたい」とし、さらなる成果に期待を寄せる。

この他の学力向上施策として、2009年度から取り組んでいる「確かな学力を育む高校教育推進事業」がある。道内を4ブロックに分け、各5校程度(計21校)の実践研究推進校を指定。4つの共通課題と「言語活動の充実」「大学等と連携した理数教育」などのテーマから1つ以上を選んで、実践研究を行う。

指定校には、指導主事を中心とする「学力向上サポートチーム」(1チーム各教科1、2人)を1教科につき年間4回派遣し、教員への指導や助言を行う。

さらに、各ブロックで優れた教科指導力を有する教員を「授業実践スペシャリスト」に選定(1教科2~5人)。スペシャリストによる教科指導力向上を目的とした「授業実践セミナー」を開催して、公開授業やワークショップ、意見交換会などを通して効果的な指導技術の普及に取り組んでいる。

本施策は最終年度を迎えたが、家庭学習時間の増加や小規模校の教員のスキルアップなど、成果が出始めており、次年度以降の後継策が検討されている。

進路指導の特徴

道外進学も視野に入れ 活発な高大連携を図る

進路指導に特徴のある高校としては、高大連携に力を入れている札幌北高校がある。隣接する北海道大学との連携事業が活発で、理学部の教授を招いた物理・数学ゼミをはじめ、同大学1年生向けの全学教育科目を受講できる「聴講型公開講座」なども開講。毎年20人近い生徒が受講している。2012年度には127人が北海道大学に合格した。

また、1、2年生を対象に東京大学、一橋大学、東京工業大学などを見学する「東京地区大学訪問」を実施している。参加者は年々増加傾向にあり、2011年度は50人が参加した。

特色ある指導を行っている私立高校には、中高一貫制の男子校である北嶺高校が挙げられる。少人数制で週6日の授業を実施。1・2年次に実施する大学見学ツアーでは東京大学、東京工業大学、慶應義塾大学など、6大学を訪問。各大学に在学する卒業生と懇親を深める。3年次には進路目標別に「東大理系数学」「医進英語」などの講座を開講し、全国の難関大学合格に向けたバックアップ体制を整えている。